

北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会（第9回）

令和3年2月1日（月曜日）午前10時00分開会

○案件

1. 報告書に記載する事項について
 2. その他
-

○出席委員（9名）

委員長	田村敏郎	副委員長	川村主税
委員	神崎和枝	委員	平松俊一
委員	上野武彦	委員	坂本繁
委員	中川友規	委員	若山雅行
委員	青山金助		

○欠席委員（0名）

○委員外議員（0名）

○出席説明員（0名）

午前10時00分 開会

○田村委員長 おはようございます。

まず、坂本委員から遅参する旨の届出がありました。

それでは、第9回目を迎えます北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会を開催いたします。

お手元にございますレジュメでございますけれども、まず協議事項といたしまして1番、報告書に記載する事項について。これについて、協議をしてまいりたいというふうに思いますが、協議する前に、2年経過するというようなことで、今までの活動を、経過を振り返った上で色々記載する事項について協議をしてまいりたいと思います。

お手元のほうには経過報告については、お配りしてございますけれども、私のほうからお話をさせていただきたいと思います。

令和元年1月19日、これ2回目でございますけれども、今後の調査、研究の進め方について話し合いをしております。町の観光資源について協議を行い、赤松街道の利活用、北海道新幹線総合車両所の活用、道の駅周辺の振興、大沼国定公園の振興、城岱牧場の利活用の5項目を中心に調査を行うことというようなことでありました。

次に資料要求としては、赤松街道・大沼国定公園の歴史に関する資料、北海道新幹線総合車両基地に関する資料、北海道縦貫自動車道、観光入込客数に関する資料、道の駅なないろ・ななえの入込客数、売上に関する資料等の要求がありました。

第3回目、1月14日でございますけれども、総務部長、政策推進課長、経済部長、商工観光課長、生涯教育課長、生涯教育課学芸員の出席を求めまして、提出のあった資料について説明の聴取を行ったところです。

4回目は2月10日で、大沼公園での民間企業によるイベントの見学、大沼公園駅前の駐車場、道の駅なないろ・ななえ、赤松街道等の現地調査を行いました。現地調査終了後に町から石川県白山市におけるビジターセンターについての情報提供をいただいたところでございます。

それから5回目、5月28日でございますけれ

ども、現地調査を踏まえた今後の検討事項について協議を行いました。委員からは、コロナ禍において海外からの観光客の誘客が難しい中、地元の人が訪れる身近な散策の場としての大沼をもう一度見直すという目線に立脚することが必要ではないだろうかとの意見などがあがっております。

第6回目、6月16日には東大沼キャンプ場、城岱牧場展望台の現地調査を行ったところでございます。

令和2年10月19日には、第7回の会議を開催いたしまして、北海道縦貫自動車道の工事の進捗状況を把握するため、北海道縦貫自動車道大沼トンネル避難坑工事の峠下工区、西大沼工区の現地調査を行ったところでございます。

第8回目、10月30日でございますけれども、北海道縦貫自動車道大沼トンネル避難坑工事の峠下工区、西大沼工区の現地調査を行い、現地調査終了後に質疑を行い、今後の峠下地区に関する町の考え方についての質疑を行ったところです。

そして、本日2月1日第9回目ということで、皆様には報告書に記載する事項に関して、様々なご意見があろうかと思っておりますので、これらの経過を踏まえた上でのご意見を出していただければというふうに考えておりますので、一つよろしくお願ひしたいと思います。

何かご意見ございますでしょうか。

基本的には、5項目の観光資源の話…。

上野委員。

○上野委員 今まで色々調査活動をやってきたわけですが、今後に対する課題というか、提言というか、そういうものはこのまとめの中でやっていかなければならないのではないかと。

今後の方向については、調査の結果に基づいて今後の課題と申しますか、検討課題というのを提起していかなければならないと思うのですが、調査した範囲の中で、一つは大沼の駐車場がありましたけれども、これが管理者が撤退するということが出されていますよね。これについては、基本的に道が管理すべきものかなと思うのですが、道はお金は出さないということで、その管理者の駐車料金とか、そういうもので賄うという

方向でやってきたけれども、このコロナ禍の中でやっていけないというふうになって撤退ということになったわけですが、これについては、一つ何とか道のほうが基本的に主体になって継続するような、そういう方向を提言する必要があるのかなというふうに思いました。

それから、まだ言われたばかりで検討していませんけれども、それぞれ6つほどの課題について調査してわけなので、それぞれについてまとめるものが必要であって、今後の課題という形でもそれぞれの課題について、していく必要があるのかなと思うので、そういった点で議論していただければと思うのですが。

北海道縦貫自動車道の工事関係で言えば、トンネル工事の関係で北斗市の場合は残土問題、有害金属が含まれていたとか、そういう問題もありましたけれども。こちらのトンネルは、まだ本線の工事が始まっていないということで、まだその残土問題も重金属の問題もまだはっきりしていませんけれども。この辺についてもきちっと対応する必要があるかなと思いますので、その辺ちょっと提言の中で入れていただければと。とりあえず二つだけ。

○田村委員長 あと他にございませんか。

若山委員。

○若山委員 今、上野委員が言ったのと似たような内容になってしまうのですけれども。

この調査特別委員会が、北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関するということで、何をどう議論してどう提案すればいいのかというのが僕自身初めてなのでよくわからなくて。道庁にいった話をするとか、意見書を出すとか、要望書を出すとか、そういうこともあるのかなと思っていたのですけれども、そこまで行かなかったの。

新幹線については早期実現して欲しいとか、高速道路についても早期に何かして欲しいというような形になるのかなとは思っていますけれども。きちっと議論をしていないので、そこを載せるかどうかというのはあれなのですけれども、ちょっと新幹線だとか高速道路だとかの負の部分とか、与える影響について、ちょっと報告書には触

れてほしいなという感じを思います。

例えば、新幹線ができることによって、ローカル線への影響がどうなるのか。例えば、例としてたった150万円出せないために池田園駅だとか銚子口駅が閉鎖されてしまうとかというようにことがJRのほうから提案があるとか。これは議論をしていないので、載せるかどうかというのは難しいところなのですけれども。例えば、高速道路が10年後に開通したような場合に、開通後の人や物の流れの変化で、今ある商店街だとか、道の駅だとか、そういうものがどういう影響を受けるのかということについて、じっくり検討すべきだというようなことです。

あと、観光については、今回のコロナでインバウンドに象徴されるように一点主義。例えば、インバウンドでどんどん人が来た、クルーズ船が何隻も来たということで、人が来たということで浮かれているように喜んでいたので、何か一つの事象で全てが逆転してしまって、100かゼロかのような形になってしまうという状況。一点主義というのですかね、ここが良ければ全て良いというようなことではなくて、そういう観光の不安定な要素を解消するために、上野委員が言ったように、今まで議論したように地元の人たちが利用するとか、そういうような視点。どんなことがあっても、固定の顧客というか、そういうような人が利用するような観光資源の活用について、再度考えるべきではないかというようなことを言っていたかと思いますが。

大沼公園については、視察もしているので南駐車場のトイレなんか、これについてはできれば新しいトイレに建て替えすべきではないかとか、そういう要望も盛り込んでほしいのと、まだはっきり確定はしていないのですけれども、駐車場の無料化とか有料化。キャンプ場の有料化、無料化とか、誰が管理するのか、金は出すのかというような、道とか地元なんかと協議している段階なので。その辺についてもできればさらっと前向きな文章にしていいただければなというふうに、こうして欲しいですとか、要望の文章にしていいただければなというふうに思います。

以上です。

○田村委員長 ほかにほかに。
(「暫時休憩お願いできますか」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 暫時休憩いたします。
午前10時14分 休憩

午前10時34分 再開

○田村委員長 休憩前に引き続きまして再開いたします。

特別委員会の方向のまとめ、これについて種々皆さんのほうからご意見等出てまいりましたけれども。特に私のほうから皆さんに確認しておきたいのは、大沼の駐車場。今年の4月から財団が撤退して管理をどうするかというこの問題。これは駐車場のみならず、東大沼のキャンプ場も影響してくるのではないかと思います。そして特に公衆トイレ、この部分の問題をどうするかという。ここら辺の大沼国定公園の平たく言えば管理。これについて、どうすべきか。課題として我々特別委員会として触れるべきか、そうではないか、まずその一点と。

それから、先ほど上野委員から言った北海道縦貫自動車道の残土の問題、これをどう触れるかどうか。

それから、若山委員から出ましたけれども、ローカル線等への影響。ここら辺も触れるかどうか。大きく言えばこの部分、特に残土とローカル線については、ちょっと端的に言えば視点がずれるのかなという懸念がするのだけれど、そこら辺を報告書で触れるかどうか。大沼の公園の管理の問題と残土の問題とローカル線の問題。これについて、触れるかどうか。問題としてという話にはなかなか厳しいかもわかりませんが、課題としてどうするかという、ここら辺の文言を載せたほうが良いか、それともどうするかという皆さんの意見をお聞かせ願いたいと思うのですけれど。

平松委員。

○平松委員 次に引き継ごうというその中にそういうテーマが少し載っているというのはあってもいいことではないかなと思います。

だから、当委員会でのこのこのということは付け加えなくてもいいですけど、そういう問題が今後注視しなければいけない問題としてあると

いう程度の表現はあってもいいのではないかなと思います。

以上です。

○田村委員長 ほかにございませんか。
中川委員。

○中川委員 ちょっと委員長に確認だったのですけれども、今言われた点というのは、残土に関してとローカル線に関して、この委員会では何かそういう話は出ましたかね。

○田村委員長 出ましたというよりも、先ほどそういう部分も触れたほうがいいのではないかなという。それについての詳しい議論というのはしていませんよ、ここでは。この委員会ではしていませんけれども、触れたほうがいいのではないかと。

○中川委員 触れてあって、そのキーワードが過去に委員会の中で出てきていて、こういう問題もあるねと。中までは入っていないけれど、あるねというものがあれば、言われたように載せても良いと思うのですけれども。今までの委員会の中で出ていないのであれば、利活用というこの委員会の趣旨とはちょっと違うので。委員会の中で出てきていけば良いと思うけれど、出ていないのであれば、この委員会の趣旨として、調査した中で方向性ちょっとずれてしまうかなと思うので。もし、例えば報道とか、どこかの場面で残土問題とか、ローカルの問題が出てくるというのがこの委員会がある最中に報道とかであれば、それでも一般質問とかでやったほうが良いと思うのですけれど、そういう問題であれば。なので、ちょっと委員会としては、過去の発言等ちょっと無いのであれば、ちょっと今回の委員会では載せないほうがいいのかと。

ごめんなさい委員長、一番最初なんと言いましたか。三点ありましたよね。

○田村委員長 大沼の公園の駐車場。

○中川委員 駐車場に関しては、皆さんで委員会で見て現地に行っていますので、その点は管理運営者の問題というのは正式には委員会には出てきていないとは思いますが、実際に見てきた中の現状というのがありますので、そこは触れてもいいのかなと思います。

○田村委員長 ほかに。

上野委員。

○上野委員 今、中川委員のほうから意見が出されておりましたけれど、その点についてちょっと私の考えなのですけれど。

縦貫自動車道の残土問題というのは、この委員会で特に議論の対象として、議論してはいないのですけれど。ただ、縦貫自動車道のトンネル工事の進捗状況というような形で、トンネル工事の調査をしておりますので、関連で言えば、この縦貫自動車道の工事そのものが今後どういう問題を起こすかもしれないということ言えば、今後の課題として触れておくのは必要ではないかというのが一つです。

それから、ローカル線の影響の問題も、これも北海道新幹線の利活用というような形の中で議論してきましたので、議論としてこのローカル線問題については課題に上がっていませんし、議論もしていないと。そういうことと言えば、委員会の活動の報告という中ではちょっと異論的なものがあるかもしれませんが、今後のこの委員会でやることかどうかわかりませんが、今後の課題は残されているというような表現での触れ方はあっていいのではないかというふうに思っています。

○田村委員長 ほかに。

若山委員。

○若山委員 僕もローカル線とか、そのものについて本題で触れて欲しいということではなくて、新幹線が通ることによって、我々は待望しているわけだけれども、それによって影響を受けるローカル線とか、こういうことについても考えていく必要があるだろうぐらいの、そういうトーンはあっていいのかなというふうに話したのです。

議論はしていないので、載せるかどうかというのは、中川委員が言ったとおり議論していないから載せないというのは、それはそれで正当な意見だなと思ってあはしています。

ただ、我々の委員会のタイトルが、北海道等新交通体系というあれなので。そういう意味では新幹線ができることによって札幌まで早く行けるとい、そういう良い面ばかりが強調されるので、

早くやってくれとかあるのだけれども、ローカル線に対して全く影響がないのかどうか、そういうことについても含めて考えていく必要があるというぐらいのニュアンスの話は、あっていいのかなというふうに僕は考えて提案しただけです。

残土の問題についても、問題になっているのは新幹線のトンネルの残土ではないかなと思うのですよね。縦貫道のトンネルについては、どこかに使うというようなそういうあれがあったので、あまりあれではないのかなと思うのだけれども、そういうことも合わせて、新幹線工事のあれによって残土の問題だとか、ローカル線への影響だとか。そういうこともありますよねというくらいは、本題ではないけれどもさらっと触れてほしいなという感じで述べただけです。

大沼公園の管理については、これについては、しっかり道が本来責任を持って道筋をつけるべきであるとか、システムを作るべきだとか。今考えているのは、駐車場を大沼の人たちは無料にしてくれという要望を出していたのですけれども、有料化をして、そこから上がる費用で管理維持を道がやるということで。道は一切お金を出しません、お金がないのでというのが、1月14日の町民に対する説明でした。

これに対してはもの凄い反論があって、そんなゼロ回答を持ってきたのかということ、相当地元の大沼の人から、何言っているのだということ、決裂のような感じだったのですけれど。今後まだ道がもう1回案を提示するというようなそういう形を出す形になっております。その時に、キャンプ場も有料化して、すごい人気のあるキャンプ場なので、有料化して運営してその上がった費用で管理を賄うという話もあったのですけれども。キャンプ場を有料化したとしても、そんなに利益が上がって他に回せるような話ではなかったのですよね。試算で、100梁とか、200梁とか色々やっていたのだけれども、600万収入があつて、550万か600万くらい費用かかるというような話だったので。全然収益上がらないですよね、無料でやっても大して変わらないような話だったので。そういう話の中で、道は国定公園本来自然公園法の中でいくと、管理しなければ

いけないのだけれども、管理しているという様子がなかったの、残念ながらこの委員会の中でそういう議論をする機会がなかったの、話はできないのですけれども。

自然公園財団が撤退するというのは、コロナの前から、3年くらい前から撤退すると。それは、駐車場の収益だけで公園財団が維持できないからということなのですね。なぜならというと、あそこを有料で利用すると、道が協力料として使用料を取るのですね。500万とか600万とか取るので、ちょっとでも使ったのなら、その金を道に収めなければいけないというのがあるので、どう頑張っても、有料化したら合わないという、そういうようなのが我々の考え方なのですけれども。それは、条例にそうなっているので、道は一切変えませんという話だったので、なかなか難しいのですけれども。

細かい話は色々もっと議論した上で、こうして何とかとやりたかったのですけれども、それしていないので、本来撤退することは、自然公園財団が撤退することは明らかですし、その後の管理については、きちっと道が道筋を示してほしいというくらいのニュアンスは報告書に入れてもいいのかなと。

あわせて僕としては、トイレの建て替えのようなものを、観光地にふさわしいトイレにしてほしいなということも書いていただくとありがたいところで、先ほど述べさせていただきました。

以上です。

○田村委員長 ほかにございませんか。

今まで3点について、ご意見いただいたのですけれども。まず一つには、残土の問題、あるいはローカル線の問題。

これについては、この特別委員会の趣旨というか、直接関係ないと言えばおかしいのですけれども。縦貫自動車道の峠下工区、あるいは西大沼工区は鉱毒云々の、残土処理の云々で見に行ったわけではなくて、あくまでも大沼の出るところのインターチェンジをどういうふうにやっていくのか。その前段に工事の進捗状況を見ようではないかというようなことで見に行ったということ

で。目的からすれば、残土云々でどこに投げてどういうあれなのかというそういう調査ではまずなかったということでご理解をいただきたいと思います。

それから、若山委員も先ほどご自身で申されておりましたけれども、ローカル線等については、これは私率直に言えば、新幹線が札幌まで延伸になった場合に、当然ローカル線というか、函館本線この部分がどういうふうに、第三セクターになるのか、あるいは各自治体でその間を持つのかという、そういう議論が沸き起こってくるのではないかと思うのですよね。

そこら辺で、新幹線と在来線の問題ということは大きくクローズアップされるべき問題だろうというふうに私は思っていますので。これについても、ちょっと触れようがないというか、なかなか厳しいのではないのかなと、正直言って。

それからもう一つには、大沼の管理の問題ですけど、これについては国定公園の趣旨から言って、道が管理するという事になっている以上、しっかりと道に向かって、やることはやってもらいたい。サポートするところは、町としてもサポートするので、そういうような一つの関係でありますので、そこら辺は強力に物を申していかないと、大沼国定公園そのものが衰退するというか、地元から崩壊していくような形にはなるのではないかと思うので、これについてはしっかりと報告していくべきではないのかなというふうに思いますけれども。

どうでしょうか。大体そういう方向の中で報告書を、今色々な意見をいただきましたけれども、そういうものも加味しながら、作っていきたいなとは思いますが。

まず、事務局と私と副委員長の中で素案を作って、そして次回、また皆さんから意見を聴取しながら最終的に決めていきたいなとは考えておりますけれどもいかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 それから、平松委員が言われた、私も広範な町内の方々からの七飯の観光についての話し合いというか、交流というか、こういうものは今後機会あるごとに開いていくべきだろうと

僕は思うのです。機会あるごとにそういう意見を聴取しながら皆で観光を盛り上げていく、地域振興をしていくという視点からすれば大事なことだろうと思いますので、それについては盛り込ませていただきたいなと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 ほかにありますか。

なければ、今日はこのくらいにとどめておいて、後日原案ができましたら、また開催いたしますので、その時に貴重な意見をいただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 そうしましたら、今日はこのくらいで閉じさせていただきます。

次回の会議の開催日につきましては、事務局と私どものほうで、調整しながらお知らせしたいと思いますので、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 今日はこの辺で会議を閉じたいと思います。

ご苦勞様でした。ありがとうございます。

午前10時53分 閉会